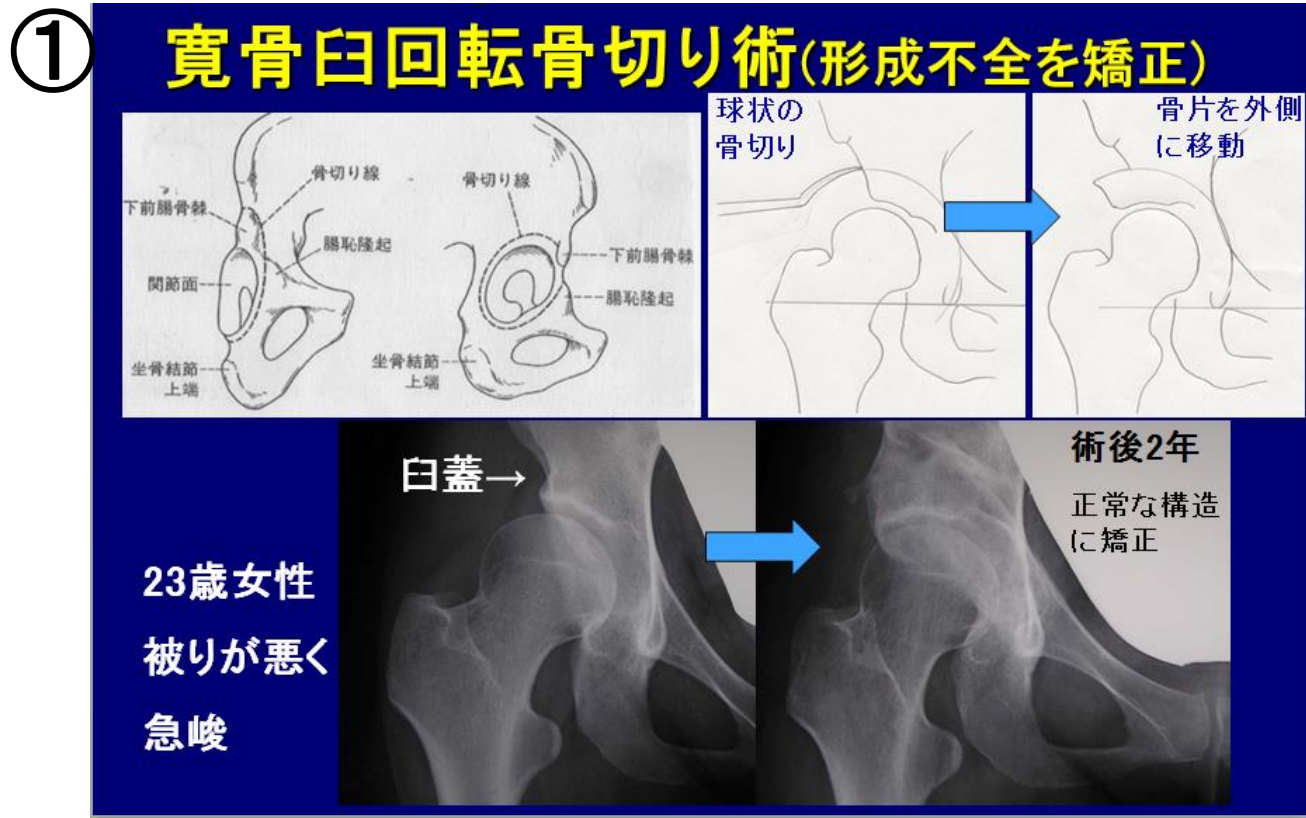


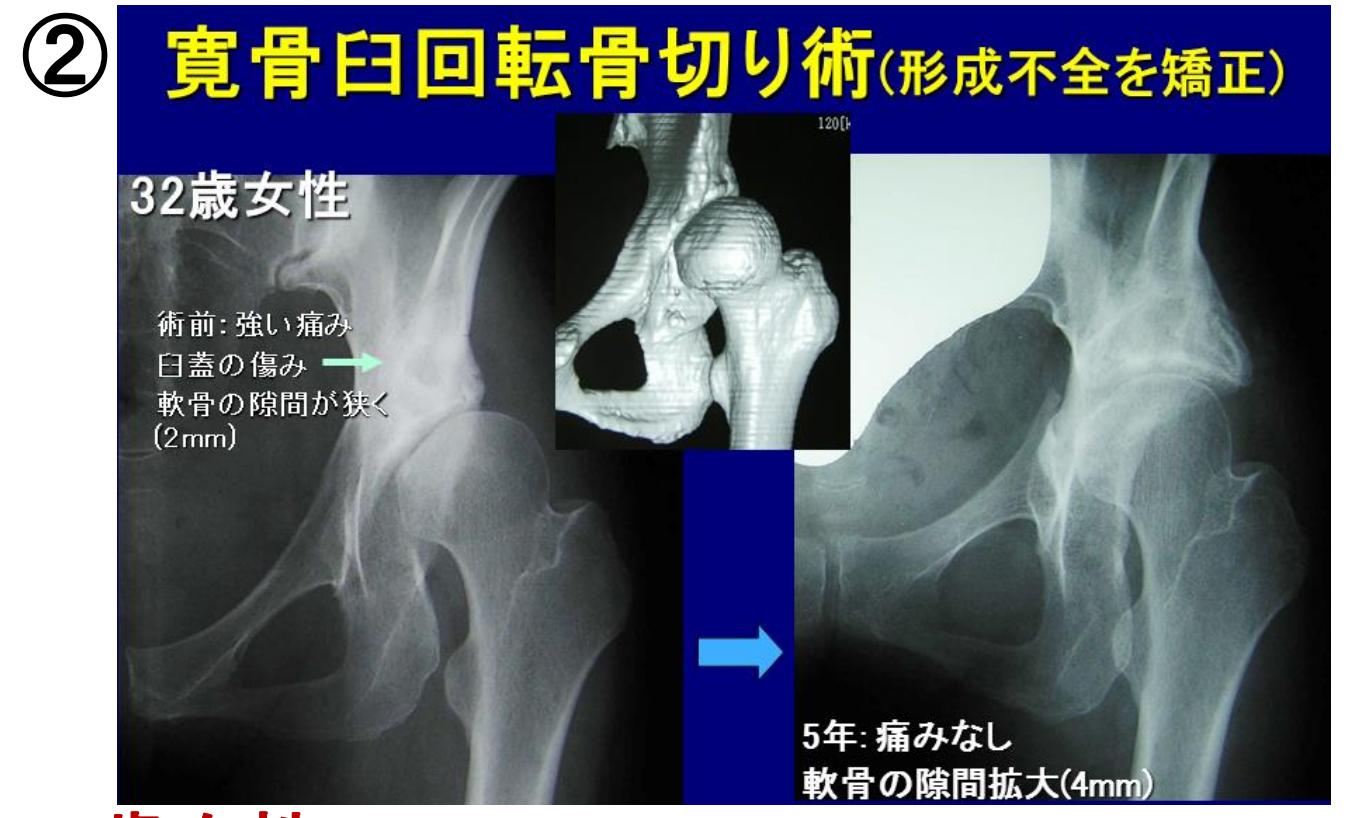
股関節の発育不全で生じる股関節症 (形成不全性股関節症)

整形外科: 小林千益、青木哲宏、中川浩之、出田宏和、黒河内大輔

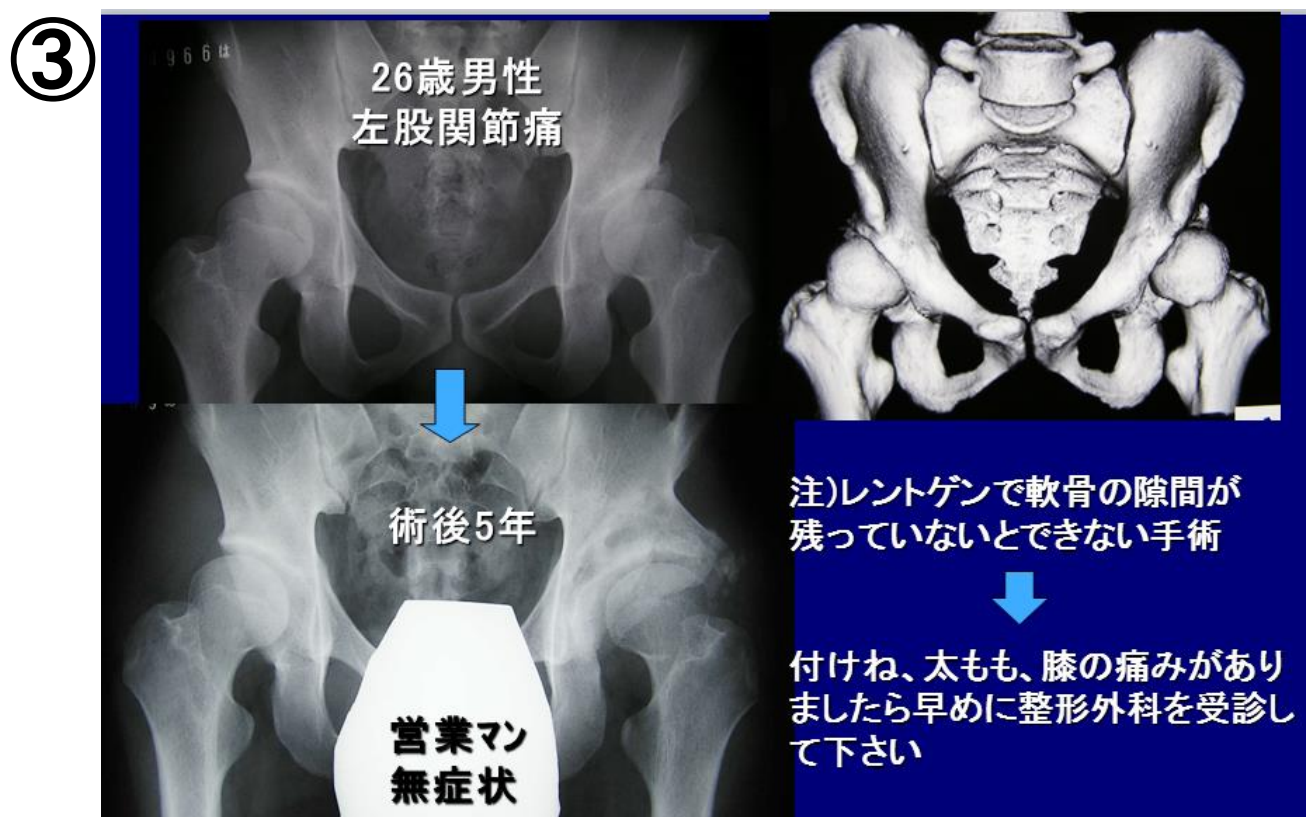
4: 形成不全を矯正する骨切り術



寛骨臼回転骨切り術が主に行われています: 股関節の骨盤側をノミで球状に切り、骨片を外側に引出します。骨頭を被覆する骨盤側の上の部分を臼蓋と呼びます。急峻な臼蓋を水平化し、臼蓋による骨頭の被りをよくします。その結果、痛みが軽減し、病気の進行が抑えられます。



32歳女性: この方は、痛みが強く、股関節の臼蓋の骨が傷んでいて、軟骨の隙間も半分程に狭くなっていました。術後5年で痛み無く、歩行日常動作に支障なく、軟骨の隙間も広がりました。



26歳男性: この方は、左股関節痛で歩行と日常動作が障害されていましたが、術後痛み無く営業マンとしてフルに働いています。

レントゲンで軟骨の隙間が残っていないとできない手術です: 軟骨が擦り切れてしまうと骨切り術はできません。前記の症状がありましたら早めに整形外科を受診して下さい。



手術も進歩しています: 最近では、股関節用ナビを用いて、より正確に安全に手術を行っています。